

レポーティング（2026 年 3 月末）

1. 資金充当状況レポーティング

【第 10 回無担保社債（第 4 回グリーンボンド）】

資金充当状況は下記の通りとなります。2026 年 3 月時点で、総調達額 4,970 百万円（発行諸費用除く）をすべて新規ファイナンスに充当済みです。

（単位：百万円）

社債発行金額	発行諸費用	総調達金額	前期充当済金額	今期充当金額
5,000	30	4,970	4,520	450

（単位：百万円）

適格事業区分	資金充当金額 (2025 年 4 月)	資金充当内訳			未充当金額
		研究開発	設備投資	製造費用 /経費	
電池関連	136	89	-	47	-
次世代パワー半導体関連	80	80	-	-	
CCU/CCS および水素/アンモニア関連	170	170	-	-	
クリーンエネルギーの利活用関連	39	-	39	-	
製造プロセスの省エネ化関連	23	-	23	-	
計	450	339	62	47	

（単位：百万円）

新規ファイナンス/リファイナンス	金額	割合(%)
2024 年度充当額 対象期間：2024 年 4 月～2025 年 3 月	4,520	-
2025 年度充当額 対象期間：2025 年 4 月	450	-
新規ファイナンス	4,970	100%
リファイナンス	-	-

2. インパクトレポーティング

適格事業区分	主な取り組み
電池関連	- 2025 年 6 月に、ハンガリーのエンジニアリング企業である Duna Center Therm Uzemi Szolgaltato Kft.を通じてハンガリー国営のエネルギー会社 MVM グループの子会社 MVM Balance Zrt から受注した電力貯蔵用 NAS 電池の設置・試運転作業が完了し、運転開始式が開催されました。 - 2025 年 7 月に、当社、株式会社リコー、大和エネルギー・インフラ株式会社、当社と株式会社リコーが出資する合併会社 NR-Power Lab 株式会社で開発を進めるシェアリング機能付きハイブリッド蓄電所「StorageHub」の太陽光発電設備が、岩手銀行グループ会社の manorda いわて株式会社が運営する太陽光発電所にて運転を開始しました。 - 2025 年 11 月に、当社と岩手銀行グループ会社の manorda いわて株式会社が共同で取り組む、シェアリング機能付きハイブリッド蓄電所「StorageHub」の実証プロジェクトが、一般社団法人太陽光発電協会（JPEA）が主催する「ソーラーウィーク大賞 2025」の優秀賞を受賞しました。地域との共創による再生可能エネルギー（再エネ）循環モデルとして、地域振興への貢献、地域主体による事業体制、持続可能性と先進性の両立が高く評価されました。
次世代パワー半導体関連	- 2025 年 5 月にドイツ・ニュルンベルクで開催された「PCIM Europe 2025」に出展し、SN-AMB/DCB 回路基板、SiC ウエハー、セラミック大電流配線基板などを紹介しました。 - 2025 年 7 月に、東京で開催された 「COMNEXT 2025 ～第 3 回 [次世代] 通信技術&ソリューション展～」に出展し、窒化ガリウム（GaN）ウエハー「FGAN」などの次世代ウエハーを紹介しました。 - 2025 年 9 月に、韓国の釜山で開催された国際会議「International Conference on Silicon Carbide and Related Materials （ICSCRM）2025」に参加し、開発中の SiC ウエハーに関する研究成果を発表するとともに、関連製品を展示しました。 - 2025 年 9 月に、オランダのユトレヒトで開催された国際会議「European Microwave Week (EuMW) 2025」に参加し、学会で石英ガラス複合ウエハーに関する研究成果を発表するとともに、無線通信用途の複合ウエハーや窒化ガリウム（GaN）ウエハー「FGAN」などを展示しました。
CCU/CCS および水素/アンモニア関連	- 2026 年 2 月に、当社と中部電力株式会社は、アンモニアを焼成する焼成炉の実用化に向けた共同研究に関する契約を締結しました。共同研究によりアンモニアを利用した二酸化炭素を排出しない焼成を実現し、2050 年のカーボンニュートラル達成に貢献します。 - 2026 年 3 月に、東京で開催された 「Smart Energy Week H2&FC Expo 水素・燃料電池展」に参加し、サブナノセラミック膜を中心に、ベリリウム銅、CO2 センサー、熱交換器と幅広い製品を展示しました。

適格事業区分	主な取り組み											
CCU/CCS および水素/アンモニア関連	- 2026 年 3 月から、当社は工場やプラント施設などの排ガス向け CO₂分離回収技術として、当社のサブナノセラミック膜を活用した新たな分離プロセスの実証試験を開始しました。本件については、2021 年 1 月より東邦ガス株式会社と連携をしており、実際の排ガスから CO₂を分離する試験を通じて、カーボンニュートラル社会に不可欠な CCUS（回収・利用・貯留）の実現に向けた技術開発を加速していきます。 - 2026 年 3 月に、当社は 2023 年 6 月から進めていた水素を燃料とする焼成炉の実用化に向けた実証試験の結果、水素燃焼による自社製品の量産技術の確立に成功しました。二酸化炭素を排出しない焼成を実現し、事業活動（スコープ 1）による年間約 20 万トンの CO2 を削減することで、2050 年 CO2 排出ネットゼロを目指します。											
クリーンエネルギーの利活用関連	- 2025 年 4 月に、当社の製造子会社である NGK セラミックスポーランドは、ポーランドの太陽光発電事業者の Helios Renewable Energy Sp. zo. o と、NGK グループとして初めて VPPA（Virtual Power Purchase Agreement：仮想電力購入契約）を締結しました。VPPA は、需要家が再生可能エネルギー由来の電力の環境価値のみを仮想的に調達する契約形態です。このたびの契約は、年間 125 ギガワット時の太陽光発電による再エネ由来の電力に相当する追加性を伴う環境価値を、2026 年 4 月から 2036 年 3 月までの 10 年間調達する予定で、実質計約 94 万トンの二酸化炭素の削減に寄与することが見込まれています。 - 2026 年 3 月に、当社は東京で開催された 「Smart Energy Week SMART GRID Expo スマートグリッド展」に出展し、再生可能エネルギーの活用に関する顧客の資金計画から企画立案、設計/施工、運用、さらには電力デジタルサービスや VPP まで、一貫して対応するワンストップの脱炭素ソリューションを展示しました。											
製造プロセスの省エネ化関連	- 新規の設備投資にはインターナル・カーボンプライシング(140 ドル/トン)を継続的に適用し、高効率設備の投資を推進しております。 - 当該期間（2025 年 4 月）に既存の設備より CO₂の排出量を減らす新規の設備投資を行いました。 <table><tr><th>主な設備投資の内容</th><th>検収高</th><th>年間 CO₂ 排出削減量</th></tr><tr><td>知多地区 冷却水ポンプ省エネ対策</td><td>9 百万円</td><td>▲ 529.0t/年</td></tr><tr><td>知多地区 新溶体化炉設置</td><td>4 百万円</td><td>▲ 54.0t/年</td></tr></table>			主な設備投資の内容	検収高	年間 CO ₂ 排出削減量	知多地区 冷却水ポンプ省エネ対策	9 百万円	▲ 529.0t/年	知多地区 新溶体化炉設置	4 百万円	▲ 54.0t/年
主な設備投資の内容	検収高	年間 CO ₂ 排出削減量										
知多地区 冷却水ポンプ省エネ対策	9 百万円	▲ 529.0t/年										
知多地区 新溶体化炉設置	4 百万円	▲ 54.0t/年										